

第 139 回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学教育学部 特別支援教育領域 教授

香川大学教育学部附属幼稚園 園長

香川大学学生支援センター バリアフリー支援室 室長

坂井 聡

権利としての表出

もしもあなたが声を出すことができなかつたら、どうやって自分の意思を相手に伝えるでしょうか。このコラムを読んでいる多くの人は、サインや筆談などを使ってコミュニケーションすることを思いつき、それらを使って意思を伝えるのではないかと思います。この場合は、やりとりする人がどちらも文字やサインの意味を理解しておく必要があります。そうしないと、意味が分からないので通じないからです。そのようなときに、もし、自分の声ではないけれど音声を表出することができるかどうか。もっと伝わりやすくなるのではないかと思います。今回は、なぜ、VOCA が必要なのかを考えてみたいと思います。VOCA とは、Voice Output Communication Aid のことで音声を出力することのできる機器のことを言います。VOCA 最大の特徴は簡単なスイッチ操作一つで音声を出させることができるということです。音声を出させることができるということは、周囲の人に伝わりやすいので、聞こえた人たちからの反応を引き出しやすいということになります。これを使うと、簡単なスイッチ操作一つで、少し距離が離れている相手にも伝わるという経験をするができるのです。つまり、音声を出すことができるということは、伝達性が高くなるということなのです。音を出すことが相手の反応を引き出すことができるので、VOCA は伝わったという経験をする上で重要なツールになるのです。そして、忘れてはならないことがあります。VOCA を使うことでもたらされる最も大切なことです。それは、今の自分の力で話す権利を行使することができるということです。その権利を行使することを音声表出ができるようになるまで待たなくてよいということなのです。どの子どもも、周囲の大人に対して自分が欲しいと思う物や必要な物、興味のある物を伝える権利をもっています。要求したり、注目してもらったり、拒否したりする権利があります。VOCA を使うことができるということは、その権利を行使する環境を整えることができるということなのです。子どもは、上記のような権利を今ある力で行使してもよいはずなのですが、専門家から「もう少し様子を見てみましょう」、「構音の訓練をして、音声が出るようにしましょう」などと言われることがあります。それは本当に正しいことなのでしょうか。権利を行使することはあなたにはまだ早いと言っているのではないかと思います。訓練等によって話せるようになるまで、周囲の人に伝えるという権利を使うことができないとなると、イライラしたり怒ったりすることもあるのではないではないかと思います。言いたいことは誰にでもあるはずなのです。そうではないでしょうか？相手に分かるように伝える手段が今ないために、うまく伝えることができないために、イライラしたり怒ったりするのは。VOCA を使って相手に伝えることを可能にすることで、大人の協力を得ていろいろなことを解決することができる経験ができるようにするのです。これが、VOCA を使う理由なのです。もちろん、使える子どももいれば、向いていない子どももいるでしょう。子どもの実態に応じて導入すればよいのですが、いずれにしても、子どもが自分の権利を行使するためにコミュニケーションエイドを使うのだという基本は私たちが押さえておかねばならないことだと思います。

～坂井聡先生の紹介～

((プロフィール))

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了 香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部特別支援教育領域 教授。1997 年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。